



源兵衛川は静岡県三島市街地を貫流する約1.5kmの農業用水路です。その水源は富士山を源にする三島湧水群の1つである「楽寿園」(国の天然記念物及び名勝指定)の中の小浜池で、古くから市民の生活と深い関わりがありました。しかし、地下水の多量な汲み上げなどにより、昭和35(1960)年ごろから湧水量が激減しました。さらに家庭排水による水質悪化が進行したため、源兵衛川は市民の生活から遠ざかるようになりました。



悪化した水辺環境を再生させるため、平成2(1990)年度から平成9(1997)年度まで静岡県によって「水環境整備事業」(農林水産省補助)が実施されました。さらに平成13(2001)年から三島市が取り組んでいる『街中がせせらぎ事業』によって、市民、企業、行政が連携した親水整備や環境用水の導水(企業の協力による夏期36,000m³/日、冬期21,600m³/日の冷却水の導水)が行われました。また、市民団体による定期的な河川清掃や、ホタルの幼虫放流などの活動も行われるようになり、このような活動によって自然豊かで美しい水辺空間がよみがえりました。



源兵衛川位置図

当初、三島市など行政は河川再生に対して積極的ではありませんでしたが、源兵衛川の原因風景・原体験を取り戻そうと多くの市民が立ち上がり、市民・NPO・行政・企業がパートナーシップを組んだ活動が始まりました。この活動をきっかけにして、NPOグラウンドワーク三島が平成4(1992)年に設立されました。グラウンドワーク(Groundwork)はイギリスで始まった実践的な環境改善活動のことです。行政もこのような活動に呼応して、8つのゾー



湧水が豊富な源兵衛川（昭和30年代）



汚れた源兵衛川（昭和35年～平成元年）

ンからなる親水施設の整備、プロムナード修景整備（平成15（2003）～平成17（2005）年度）を進めるなど、市民・NPO・行政・企業と協力しながら源兵衛川の河川再生に努力しています。

事業終了後も住民の手によって生態系を守り育てる地道な活動が続けられており、今では自生したホタルが乱舞する自然度の高い川へ変貌しつつあります。夏にはサンダルで川の中を歩く人を多く見かけるようになりました。

源兵衛川は、かつての失われた川を市民参加型のまちづくりで取り戻した優良事例として高い評価を受けています。平成16（2004）年「土木学会デザイン賞（最優秀賞）」、平成17（2005）年「手づくりふるさと郷土賞（地域整備部門）」、平成18（2006）年「疎水百選」、平成19（2007）年「優秀観光地づくり賞（金賞）」、平成20（2008）年「平成の名水百選」などに認定されています。



現在の源兵衛川



市民による活動（グラウンドワーク）